

後ろ向き観察研究用

本院患者さんへの情報公開用文書（ホームページ、掲示用 周知文書）

自主臨床研究「パーキンソン病の病態解明に関する研究」についての説明

●はじめに：

パーキンソン病は振戦、固縮、無動・寡動、姿勢反射障害を特徴とする神経変性疾患です。治療には薬物治療や深部脳刺激療法などがあります。本研究の目的は、パーキンソン病患者さんの身体診察所見、各種画像検査所見、深部脳刺激療法時の刺激部位や強度の違いによる症状の変化を評価することで、パーキンソン病の病態を解明し、今後の治療の発展に役立てることです。

●研究対象：

札幌医科大学付属病院とその連携1施設において、現在治療を受けているパーキンソン病患者さんならびに2024年3月31日までに治療を受けるパーキンソン病患者さんのうち、研究に同意していただいた方が対象となります。

●研究内容：

パーキンソン病患者さんの身体診察所見、各種画像検査所見、深部脳刺激療法の適応患者さんでは術中の脳活動の記録と術中術後に刺激部位や強度の違いによる症状の変化の評価を行います。

●患者さんの個人情報の管理について：

本研究では個人情報の漏洩を防ぐため、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化など秘密保護に十分配慮します。本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

●患者さんがこの研究に診療データを提供したくない場合の措置について：

現在治療を受けているパーキンソン病患者さんならびに2024年3月31日までに治療を受けるパーキンソン病患者さんの中で、この研究に診療データを提供したくない方は、下記までご連絡ください。

●予定症例数：

当院80症例（全体100症例）

●研究期間：

病院長承認日から 2025 年 3 月 31 日まで。

●医学上の貢献：

研究成果は、パーキンソン病の病態解明の一助となり、患者さんの治療と予後改善に貢献することが期待されます。

●問い合わせ先：

〒060-8543 北海道札幌市中央区南1条西16丁目

札幌医科大学付属病院 脳神経外科

本院研究責任者 三國 信啓

同院研究分担者 三上 毅、秋山 幸功、江夏 怜、越智 さと子、栗原 伴佳

【平日 TEL (011) 611-2111 内線 3351 (教室) 休日・時間外 FAX (011) 614-1662】